

田舎応援歌 CD第2弾

南足柄の古屋さん

田舎を応援する歌を作っている南足柄市塚原の農園経営古屋富雄さん(63)が、第2弾となる新曲「ふるさと帰郷」を作詞し、フォークグループBUZZの東郷昌和さん(64)による作曲と歌で、先月下旬にCDリリースされた。ポップ調の乗りの良い曲で、古屋さんは田舎暮らしを希望する若い世代に聴いてほしい」と話している。

(丹下信之)

「過疎」のその後歌う

第1弾は昨年リリースされた「過疎」。草が生い茂って道幅が狭くなった寂しい村の風景など、古屋さんが学生時代に見た地方の様子を作詞作曲し、東郷さんがゆったりしたフォーク調で歌い上げた。曲を聴いた人から「村のその後が知りたい」という声をもらうようになり、アンサーソングとして第2弾が誕生した。

多くの人が町へ出てしまい、40年たった今も、妻と「農ある暮らしを続けています」とつづり、農業をやりたい若者がやってきたとい

田舎の応援ソングを作詞した古屋さん(南足柄市で)



う前向きな内容も。最後には先祖の墓に花をたむけよ。優しい母の胸に戻れよ」と郷愁に訴えかけている。当初は第2弾もフォーク調の予定だったが、数々のヒット曲にかかわった編曲者の伊藤銀次さん(65)が、若者にも受け入れられるようアップテンポにアレンジした。伊藤さんは「シンブルだけど力強い思いと、心に触れるドラマが強く訴え

かけてきて僕を動かした」とコメントを寄せている。カップリング曲は、第1弾CDに入っている古屋さん作詞作曲「遠い思い出」のアンサーソング「村に戻って」を収録。歌詞では、村で郷土料理の宿を始める「僕」の元へ、引っ越していった幼なじみの「君」から手紙が届く。「一緒に暮らしたい」。

古屋さんは「東京一極集

中と地方の衰退を憂う思いは、東郷さんや伊藤さんたちと共有している。来年には第3弾CDを発売して、田舎応援ソング3部作として完結させたい」と意欲を燃やしている。

CDは1200円(税込み)でネット販売。問い合わせは古屋さん(090・7849・9200)。